

松田峻一良先生を偲んで

1月7日の夕方、突然の訃報に接し、茫然として言葉も出ませんでした。それからひと月以上が経ちましたが、悲しみは尽きません。医師として、政治家として、政策的な面にとどまらず、さまざまな事柄で悩んだとき、困ったとき、報告や相談をしたいことがあるとき、いつも私を支えて下さったのが松田峻一良先生でした。昨年末に結婚のご報告をさせていただいた際も、温かい祝福と励ましのお言葉をかけて頂きました。それが最後の会話になってしまったことが、いまだに信じられない気持ちです。今でも、携帯電話にかけると、温かく応えてくれるのではないかという思いに駆られてしまいます。

松田峻一良先生には、2016年の参議院議員選挙に立候補すると決まったときから、福岡県医師会長として多大なご指導を賜りました。暗中模索で飛び込んだ政治の世界でしたが、同じ福岡県出身の横倉義武日本医師会長とともに松田峻一良先生が政治家自見はなこを育てて下さいました。成育基本法の議員立法や、産後ケア事業の法制化、訪日・在留外国人医療の問題など様々な政策分野でご指導頂き、とりわけ、事務局長を務める難聴対策推進議員連盟の活動については、耳鼻咽喉科医ということからも大変な応援をいただき、議連活動が実って令和2年度予算で新生児聴覚検査及び聴覚障害児支援の推進予算が対前年度比で12倍超の6億円になったことなどを非常に喜んでくださいました。本年7月に行われる参議院議員選挙に向け、日本医師連盟から推薦決定を頂くにあたって、松田峻一良先生に大変なお力添えを賜りました。今年は改選の年であるとともに、成育基本法の議員立法以来取り組んできた「こども家庭庁」設置法案が国会に提出されるなど、大きな節目となる年であり、引き続き松田峻一良先生にご指導いただけるものと思っていただけに、早すぎるお別れが残念でなりません。

新型コロナウイルス感染症対策においても、松田峻一良先生の強力なリーダーシップに多くの命が救われました。厚生労働省、福岡県庁や日本医師会、市区町村医師会、保健所との緊密な連携のもと、病床確保や発熱外来、自宅療養者の健康観察、ワクチン接種の推進など昼夜を問わず取り組んでいらっしゃいました。福岡県でクラスターが発生した際、私も厚生労働大臣政務官として現地入りをしました。松田峻一良先生のご尽力により一連のオペレーションをスムーズに行うことができました。100年に一度のパンデミックとも言われるコロナ禍において、松田峻一良先生というリーダーの存在は本当に有り難く、感謝しかありませんが、この激務がお身体に障ったのではないかと、今になって思われます。

新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、少子高齢化・人口偏在という構造的な問題を抱えるわが国の社会保障制度を巡る課題は山積しています。松田峻一良先生は、常に公益的な医療のあり方を追求し、命を燃やしてこれらの課題に挑んでこられました。残された私たちも、志を引継ぎ、全身全霊で取り組んでいかなければなりません。松田峻一良先生がよく仰

っていた、「医は仁術。医の真のあり方は、国民が健康で安心して生活できること、働けること、それが国を豊かに強く発展させることにつながる」という言葉を胸に刻み、医政の道に邁進することをお誓いし、松田峻一良先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

本当に有り難うございました。安らかにお休みください。